

市町村体力向上アクションプラン(令和6年度版)

教委名		日田市 教育委員会		
作成者	職	指導主事	氏名	用松 孝志
	所属	学校教育課	TEL	0973-22-8326

1 体力の状況

ア 令和5年度体力・運動能力等調査結果(県調査)

・小学生
R5年度の測定平均値がR4年度全国平均値を上回った項目数
日田市53/96項目[男子24項目・女子29項目] ※R4年度49/96項目[男子23・女子26]
大分県76/96項目[男子39項目・女子37項目]
※日田市平均値が全国平均値を上回った項目数は、R4年度から4項目増えた。

・中学生
R5年度の測定平均値がR4年度全国平均値を上回った項目数
日田市5/48項目[男子3項目・女子2項目] ※R4年度8/48項目[男子6・女子2]
大分県10/48項目[男子10項目・女子7項目]
※日田市平均値が全国平均値を上回った項目数は、R4年度から3項目減った。

イ 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

○総合評価C以上の児童生徒の割合

≪小学5年生≫ 男子日田市73.7%(県76.2%全国64.3%),女子日田市80.5%(県81.2%全国70.7%)
≪中学2年生≫ 男子日田市63.1%(県75.2%全国67.3%),女子日田市82.1%(県85.5%全国81.0%)
※R5年度は小学5年生男女と中学2年生女子で全国平均値を上回ったが、中学2年生男子で全国平均値を下回った。

○生徒・学校質問紙調査結果

* 運動やスポーツをすることが好き・やや好きの割合
小5 男子 94.5%(全国92.9%) 女子 89.1%(全国85.7%)
中2 男子 95.0%(全国89.4%) 女子 84.5%(全国76.5%)
* 1週間の総運動時間が1時間未満の割合(体育の授業以外)
小5 男子 6.7%(全国9.0%) 女子 16.1%(全国16.3%)
中2 男子 11.0%(全国11.0%) 女子 19.2%(全国24.9%)

ウ 当該市町村の児童生徒の特徴的な様子

○県体力運動能力等調査によると、運動部に所属している中学生男女の割合は県平均を上回り、「ほとんど毎日運動している」割合は小学校女子・中学校男女が上回った。
○生活習慣の「朝食を毎朝食べる」「食事は、好ききらいをせず、残さず食べていますか」の割合は県平均を下回っている。「夜更かしをせず、時刻を決めて寝ている」割合は、小学校では県平均を上回っているが、中学校では県平均を下回っている。

2 令和5年度の取組の検証

令和5年度の指標	達成状況・成果等
達成指標 ○全国平均値を上回る項目数の割合 小学校 (男子50% ・ 女子55%) 中学校 (男子35% ・ 女子20%) ○総合評価C以上の児童・生徒の割合 小学校 (男子75% ・ 女子80%) 中学校 (男子75% ・ 女子90%) ○運動することが好きな児童・生徒の割合 小学校 (男子75% ・ 女子60%) 中学校 (男子75% ・ 女子55%)	○全国平均値を上回る項目数の割合 小学校 (男子50.0% ・ 女子60.4%) 中学校 (男子12.5% ・ 女子8.3%) ○総合評価C以上の児童・生徒の割合 小学校 (男子74.9% ・ 女子78.1%) 中学校 (男子69.2% ・ 女子83.2%) ○運動することが好きな児童・生徒の割合 小学校 (男子76.9% ・ 女子59.7%) 中学校 (男子71.1% ・ 女子49.0%)
取組指標1 ○調査に基づく市と自校の課題を解決するための効果的な「1校1実践」に取り組む学校の割合が100% 【市の課題】小中学校ともに「50m走」	○市教委検証アンケートにおいて、すべての小中学校において「1校1実践」に取り組んだ。 (達成率100%)
取組指標2 ○児童会や生徒会主体の体育的活動を学期に1回以上取り組む学校の割合が100%	○全ての小中学校において、市統一指標として「体力向上プラン」に位置づけ授業実践の工夫・改善に取り組んだ。

【総括】
・「運動することが好き」の割合は、県調査において小中学校男女において大分県の割合を上回った。短時間で取り組めるゲーム性のある体育活動を中心に取り組むことや児童生徒が主体となる活動に取り組んだ成果であるといえる。
・体力運動能力では、小学校において全国平均を上回る項目数は男女ともに増加し、中学校において男子は減少した。特に「50m走」に課題があるため、走力及び持久力の向上のため日常の体育授業や「1校1実践」の取り組みを充実させる必要がある。
・生活習慣アンケートでは「朝食を毎朝食べる」「食事は、好ききらいをせず、残さず食べていますか」の割合は県を下回った。今後栄養教諭派遣を含む食育の充実や、家庭や保護者の協力を得ながら生活習慣の改善を図る取り組みが必要である。

3 令和5年度の取組状況

ア 児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動

- ① 教育委員会
 - ・体力・運動能力等調査の結果を分析し、市全体の課題や改善策、市内統一した重点項目を校長会・体育主任会議等で提示した。
 - ・体育主任会議を2回実施した。
 - ・各学校の体力向上にかかる課題の把握と、「1校1実践」の取組に対する指導・助言(提出時、学校訪問時)を行った。
 - ・R5年度体力・運動能力等調査結果による市の実態検証と各学校の検証を行った。
- ② 各学校
 - ・バランスよく運動能力を育成するために、R5年度体力・運動能力等調査結果に基づいて、市や自校の課題を解決するための効果的な「1校1実践」の実施及び検証を行った。
 - ・運動に興味・関心を引き出すための工夫をするとともに、校内の体育環境の整備を行い、運動の「時間」「空間」「仲間(集団)」の創出を行った。
 - ・日田市シンククライアントシステムにおいて体力向上プラン(1校1実践)を共有し、各学校での取組充実を図った。
 - ・児童・生徒の学ぶ意欲が高まる魅力ある授業を実践するとともに、児童会や生徒会が主体となる日常活動や全校・学年レクリエーション等体育的活動を実施し、運動の愛好度を高めるための取組を充実させた。
 - ・中学校において、部活動の目標設定や合同練習など、活動意欲向上を図り、活性化させた。

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動

- ① 教育委員会
 - ・体育専科教員の実践事例や指導法の充実を全市的に広げ、教員の指導力向上と体育環境の充実につなげた。
 - ・研究指定校(体育専科教員活用校・体力向上推進校)の実践例や研究成果を日田市シンククライアントシステム上に提示し、周知を図った。
 - ・各学校への栄養教諭の活用依頼と派遣による食育の充実を図り、朝食をとることや好き嫌いをなくすことを指導するなど児童生徒の生活習慣の改善を促進した。
 - ・新型コロナウイルス対策として、国の衛生管理マニュアルや県の各種通知、市内学校における段階的指導例に基づき、体育的活動ができるよう各校に指導した。
- ② 各学校
 - ・校内にてミドルリーダー的存在を体育主任に充て、体力向上プランに基づいた組織的な体制づくりと校内研修の充実に向けて取り組んだ。
 - ・管理職のもと、教務主任や体育主任、部活動主任が中心となり、体力向上推進委員会を組織し、体力向上プランにおける自校の「1校1実践」の取組について検証・改善を行った。
 - ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施できる体育的活動を工夫し、日常の体育の授業や体育的行事など実施可能な運動や競技、体育的活動を行った。
 - ・生活習慣の定着促進と食育の充実に向けて、栄養教諭を活用した食育授業を実施した。
 - ・育友会やPTAと連携したスクールヘルスアップガイドラインに基づく生活習慣の改善の取組を行った。

4 課題(令和6年度に向けて)

1. 体力の状況について

- ・小学校について、日田市平均値がR4年度全国平均値を上回った項目数は、前回と比べ男子が1項目、女子は3項目増えた。項目別では、「50m走」、「立ち幅とび」「上体起こし」に課題がみられる。
- ・中学校について、日田市平均値がR4年度全国平均値を上回った項目数は、前回と比べ男子が3項目減った。項目別では「50m走」において、令和4年度の日田市平均値を上回った学年が3つあったが、全国との比較において「長座体前屈」以外に課題が残った。
- ・小中ともに「50m走」については日田市の平均がR4に比べR5では11/18学年が上回ったものの、小学校3年女子以外は全国平均を下回っており、前年度に引き続き、「走」運動を意識した授業実践を推進する。
- ・総合評価C以上の割合は、小学校において男子2/6、女子4/6の学年が全国平均を上回り、その学年は小3男子、小4男子、小2女子、小3女子、小5女子、小6女子である。一方、中学校においては全国の割合を上回った学年はなかった。

2. 令和5年度の取組の検証について

- ・「運動することが好き・やや好き」の割合は小学校女子・中学校男女において全国平均値以上であった。市独自調査による運動の愛好度(2学期)は、小学校男子91.3%女子85.7%、中学校男子90.9%女子83.9%が肯定的な回答をいいるが、令和4年度と比べ低下傾向にあるといえる。
- ・「50m走」(走力)、「立ち幅とび」(瞬発力)、「上体起こし」(筋持久力)、「反復横とび」(俊敏性)に課題があることから、それらの改善を図る取組が必要である。日常の体育授業の改善に加え、運動の苦手な児童生徒も楽しみながら自主的に取り組めるよう、ゲーム性や継続性を重視した実践の工夫が引き続きの課題である。
- ・すべての学校において「1校1実践」に取り組んでいるが、各校においてその検証を行うとともに、ICTの効果的な活用や、運動のコツをつかませる授業実践、児童生徒が主体となる自主的・自治的活動の促進を図る。

3. 令和5年度の取組状況について

- ・市平均値が全国平均値を上回った項目数は令和元年度以降小中男女ともに減少する傾向にあったが、小学校男女において令和5年度に増加した。また、体育専科教員の活用については効果的に実施できおり、訪問連携校においては、体育の授業改善や児童が主体的に体育的活動に取り組む実践が推進された。更に本事業を継承・発展させることで市全体の向上を図りたいと考える。
- ・中学校においては、市平均値が全国平均値を上回った項目数は減少したものの、運動が好きな生徒が全国平均を上回ったことを踏まえ、体力向上に自主的主体的に取り組むための指導の工夫を推進していきたい。
- ・上記課題解決のため、自校の課題把握を踏まえた体力向上プラン「1校1実践」の作成・実践・検証を推進する。

5 令和6年度の目標及び指標

- 【目標】
○全国平均値を上回る項目数の割合を高める。
○日田市の課題である「走力」について、年間2回の調査を全小中学校で実施する。
○総合評価C以上の児童・生徒の割合を高める。
○「運動が好き」な児童・生徒の割合を高める。

達成指標	取組指標
○全国平均値を上回る項目数の割合 小学校 (男子54% ・ 女子62%) 中学校 (男子25% ・ 女子20%) ○「50m走」の全国平均値を上回る学年の割合 小学校 (男子30% ・ 女子30%) 中学校 (男子30% ・ 女子30%) ○総合評価C以上の児童・生徒の割合 小学校 (男子75% ・ 女子79%) 中学校 (男子70% ・ 女子84%) ○運動することが好きな児童・生徒の割合 小学校 (男子77% ・ 女子57%) 中学校 (男子68% ・ 女子48%)	○体力調査結果に基づく、市と自校の課題を解決するための効果的な「1校1実践」に取り組む学校の割合が100% ○「50m走」の調査を年間2回調査する学校の割合が100%(全国・県調査を含む) ○運動のコツをつかませるための授業実践による工夫・改善に取り組む学校の割合が100% ○児童会や生徒会主体の体育的活動を学期に1回以上取り組む学校の割合が100%

6 令和6年度の行動計画

ア.児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動

- ① 教育委員会
 - 市全体の課題や改善策、市内統一した重点項目の設定
 - ・体力運動能力等調査の結果を分析し、校長会、体育主任会議で提示
 - 教職員の意識改革や指導力向上の促進
 - ・体育主任会議の実施(2回)
 - ・体育推進教員の積極的な活用推進
 - 各学校の体力向上に係る課題の把握と「1校1実践」の取組に対する指導・助言(提出時、視察時)及び検証促進
 - ・学期ごとの独自アンケートによる取組の把握
 - 部活動検討委員会による運動部活動の在り方の検討
 - ・運動部活動の課題の共有と、効果的な部活動の在り方について今後の方針を検討

② 各学校

- バランスの取れた運動能力の育成
 - ・市及び自校の課題解決を図るための市のアクションプランと運動させた効果的な「1校1実践」の実施
 - ・校内の体育環境の整備による運動の「時間」「空間」「仲間(集団)」の創出
 - ・体力向上プランを日田市シンククライアントシステムにおいて共有
- 児童・生徒が主体的に取組み、学ぶ意欲が高まる魅力ある授業づくり
 - ・運動のコツをつかませるための「分かる」「できる」「楽しい」を実感できる授業づくり
 - ・大分スタンダードに基づく1時間完結型授業の確立
- 運動への愛好度を高めるための体育的活動の設定と内容の工夫
 - ・運動の得意な子も苦手な子も誰もが運動の楽しさを味わえる体育的活動の実施
 - ・「日常的・繰り返し」「短時間」「ゲーム性」をキーワードとした体育的活動の実施
 - ・児童会や生徒会が主体となる全校・学年レクリエーション、同年齢・異年齢集団での体育的活動の実施
- 中学校における部活動の時間の活用
 - ・校内部活動間の共通目標の設定や、トレーニング方法の学習などによる活性化
 - ・1人1台端末やICTの活用を通じた体育的活動の工夫
- 個に応じた目標の設定
 - ・体力測定の結果等から、個人の目標や目標達成のための取組を設定

イ.体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動

- ① 教育委員会
 - 体育専科教員の活用方法の工夫
 - ・体育専科教員について、実践事例や指導法の充実を全市的に広げ研究指定校(体育専科教員活用校・体力向上推進校)の実践例や研究成果を日田市シンククライアントシステム上に提示・周知
 - ・研究指定校(体育専科教員活用校)の公開授業の実施による指導力向上
 - ・体育主任会議において体育専科教員・体育推進教員から体力調査に向けた効果的な指導方法の提示
 - ・指導主事による連携校への巡回指導
 - 健康的な生活習慣の定着促進
 - 各学校への栄養教諭の活用依頼と派遣(日程調整)による食育の充実
 - ・スクールヘルスアップガイドラインに基づく生活習慣の改善の推進

② 各学校

- 校内研修の充実
 - ・体育主任には校内におけるミドルリーダー的存在をもって充て、組織的に取り組む体制づくりと校内研修の充実
- 体育主任会や体育部会における研修内容の所属校での還元
 - ・「1校1実践」の組織的な取組
 - ・管理職のもと、教務主任や体育主任、部活動主任が中心となり、体力向上推進委員会を組織し、市の課題や自校の課題を解決するための効果的な「1校1実践」の作成
 - ・校内体力向上研修会の実施による「1校1実践」の取組内容の共通理解
 - ・学期ごとの検証と次学期への推進
- 健康的な生活習慣の定着促進
 - ・栄養教諭を活用した食育授業の実施(学年・学級)
 - ・育友会と連携したスクールヘルスアップガイドラインに基づく生活習慣の改善の取組

7 令和6年度の人的支援の希望内容

① 体育専科教員の配置希望

	※ 指定校は3年間が原則		
ア 本務校	高瀬小学校		
イ 連携校兼訪問校	咸宜小学校	桂林小学校	三芳小学校
ウ 訪問校	若宮小学校	有田小学校	

② 希望に基づいた活用計画

4月	体育主任会議における体力・運動能力調査の実施方法、学ぶ意欲を高める指導等の実践発表
1学期	連携校での授業実践(単元ごとに実施)・訪問校での授業支援
2学期	連携校での授業実践(単元ごとに実施)・訪問校での授業支援
3学期	実践事例の交流